

平成27年
(2015年)

夏号

大津・南部の農業

発行

滋賀県大津・南部農業農村
振興事務所農産普及課
草津市草津三丁目14-75
TEL 077-567-5421~5423
FAX 077-562-8144
メールアドレス ga35@pref.shiga.lg.jp
発行責任者 古谷 博幸

この印刷物は古紙/パルプを配合しています。

目次

- 「みずかがみ」スタートダッシュ3年目
- 大津地域・南部地域の青年農業者クラブを紹介します
- 売れる野菜づくりを始めませんか ～秋冬野菜の栽培のポイント～
- 育苗ハウス・ビニールハウスを活用して、草花栽培に挑戦しよう ～ストック～

「みずかがみ」スタートダッシュ3年目



写真：「みずかがみ」栽培ほ場には、のぼり旗や看板を設置し、定期的に生育調査を実施しています。



暑さに強く、おいしい品種として滋賀県が開発した水稻品種「みずかがみ」の栽培が始まって3年目を迎えました。

今年度、大津・南部管内では334名（県下2,151名の16%）の方々が、226ha（県下1,951haの12%）の水田で「みずかがみ」を作付されており、作付面積は昨年度の約2.4倍となっています。

現在のところ生育はおおむね順調で、これから出穂、収穫を迎えます。

「みずかがみ」は県内外で高い評価を得ており、来年度以降も引き続き作付拡大を推進しています。来年度の作付をご検討いただきますようお願いします。

大津地域・南部地域の 青年農業者クラブを紹介します

青年農業者クラブは、将来の農業を支える若い農業者を中心に組織され、農業経営上での課題の解決方法や、より良い技術を検討するプロジェクト活動を中心に、他地域の農業者や消費者との交流等を行っています。

大津地域青年農業者クラブ きらり 季楽里

大津地域の青年農業者で構成されたクラブで、都市部と農村部が混在する特徴的な大津市で、米、野菜、イチゴ、花苗、養鶏、養蜂など様々な分野の若手の農業者10名が集まっています。「季楽里(きらり)」という愛称は、四季=「季節」を感じ、仕事を「楽しみ」、工夫し、自ら耕す土地=「里」に根ざした活動を目指していることに由来しているそうです。



主な活動内容

季楽里では、定例会やFace bookを活用した情報交換やメンバー全員が自らの課題解決に取り組むプロジェクト活動、先進地視察研修、農業祭への出店など様々な活動を行ってられます。そのなかでも特に力を入れている食農教育について紹介します。

●食農教育 ～「いただきます」と「ごちそうさま」～

地域の子供たちに「作物を育てて収穫し、食べるまで」を体験してほしいとの思いから、2005年から地元の小学校と連携し、食農教育を進めておられます。そばの播種から収穫まではメンバーが栽培技術指導を行い、そばうちはプロの技を見てもらいたいと講師を招いて体験授業を行っておられます。子供たちには楽しみながら農業に親しみ、体験を通じて、農業の面白さや大変さだけでなく、「食べ物と農業のつながり」を伝えていきたいと活動を続けておられます。



そばの播種



そばの収穫



そばうち

南びわこ青年農業者連合会

草津市・守山市・栗東市・野洲市で農業に励んでいる青年農業者で構成されたクラブです。現在会員は20名で、栽培品目は、土地利用型作物、施設野菜、花苗など多岐にわたります。以前は、「湖南農業後継者クラブ連絡協議会」という名称でしたが、近年では、農業後継者だけでなく、農外からの新規就農者などの青年農業者も仲間として活動しているため、平成24年度に「南びわこ青年農業者連合会」に名称変更され、一層活発な活動が行われています。

主な活動内容

●**役員会**：月に1回の役員会を開催し、研修や直売に向けた準備を進めています。役員会は、栽培のこと経営のことを始め、積極的な情報交換の場にもなっています。

●**プロジェクト活動**：自らの経営上の課題を取り上げ、その改善に取り組むプロジェクト活動を実施されています。昨年は、5名の方が取り組まれ、地域の代表として県大会へ出場された、守山市の浦谷浩明さんが、優秀賞を受賞されました。また、農業青年意見発表では、草津市の小笹敬造さんが最優秀賞を受賞され、今年度近畿大会に出場されます。

●**視察研修**：栽培技術や経営能力の向上、他地域の青年農業者との交流をめざし、毎年県内外への研修を実施されています。昨年は、耕畜連携の取り組み、肥料などについて学びました。

●**直売活動**：都市近郊で農業を営むメリットを活かし、農産物の直売活動を通じた消費者交流を積極的に行っておられます。お米の量り売りや、新鮮な野菜は毎回好評で、消費者の方からは、「もっと開催してほしい！」との要望が出ています。



プロジェクト発表県大会にて



季楽里メンバーを訪問（県内視察）



草津駅前での直売

売れる野菜づくりを始めませんか ～秋冬野菜の栽培のポイント～

①適期に種まきや植付けを行う

にんじん、だいこん、キャベツなどの秋冬野菜は、種まきや植付けしたあと、気温が下がっていきます。このため、数日の種まきや植付けの遅れが、収穫時期の大幅な遅れ、十分に大きくなならない、結球しないということにつながります。栽培前に品種毎の特性を確認してから適期に種まきしましょう。

②種まき・植付けの後、数日はしっかり水をやる

にんじんなど、種まきするものは、子葉が出てくるまで畝の上が乾かないようにします。キャベツなど苗を植え付けたものは、活着するまでの間、毎日水をやります。

③害虫防除をしっかり

種まきや植付け時は気温も高く、アブラムシ類やアオムシ、キスジノミハムシ等の害虫が多く発生します。極端な早播きを避け、植穴に処理する薬剤等を活用しながら防除を行います。

作型	7	8	9	10	11	12	1	2	3
にんじん(向陽2号)		○			■			
だいこん(耐病総太り)			○		■			
キャベツ(彩音)			◎		■			

○: 種まき
◎: 植付け

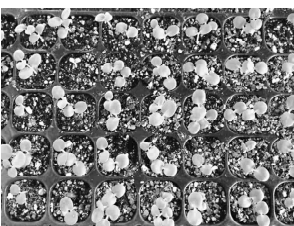
育苗ハウス・ビニールハウスを活用して、草花栽培に挑戦しよう！ ストック

これから播種して、お正月向けに出荷できる花として「ストック」を紹介します。

多彩な花の色と日持ちの良さが特長で、フラワーアレンジメントにも仏花にも使用できることから、安定した需要がある草花です。

播種時期や品種を組み合わせることにより、12月から4月にかけて出荷することができます。

表	作付スケジュール				○: 播種	※: 八重鑑別	□: 定植	□ 開花			
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	品種	留意点
12月出荷	○※□				□					極早生・早生	
1月出荷		○※□			□					中生	
2～3月出荷			○※□					□		中生・晩生	保温カーテン等が必要
4月出荷				○※□					□	中生・晩生	



3粒ずつ播種して、葉の形状を見ながら1本だけを残す(八重鑑別)



10～12cm 間隔で定植

